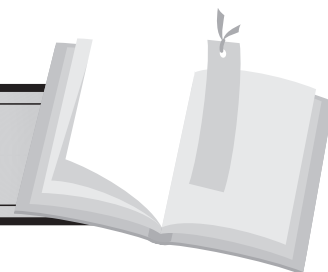


書籍紹介コーナー



「他の人にも知ってほしいこの一冊」そう思える本がどなたにもあるのではないのでしょうか。このコーナーではそんな一冊を会員のみなさんに紹介してもうらうコーナーです。まずは広報委員会の精鋭メンバーに聞いてみました。

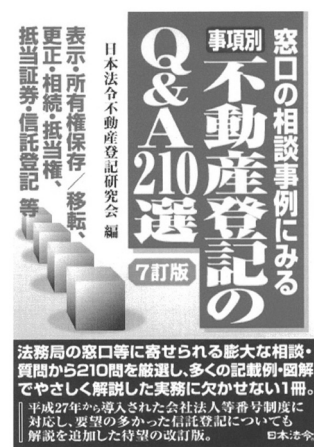
霧島支部 宮田 康浩

- ①タイトル：7訂版 事項別 不動産登記のQ&A210選
- ②編 者：日本法令不動産登記研究会
- ③出版社：日本法令
- ④内 容：タイトルのとおり，不動産登記全般にわたる210問の質問について，Q&A方式により多くの記載例・図解とともに解説した実務に役立つ1冊です。

- ⑤おすすめのポイント：痒いところに手が届きスッキリする本だと思います。清算終了した会社の清算終了前に消滅した抵当権の抹消について、「当時の清算人を登記義務者の代表者とし，所有権の登記名義人を登記権利者として，共同で抵当権の抹消登記を申請することができる。」との『登記研究』151号質疑応答があります。私が受託した事案では代表清算人が死亡しており，どうしたものじゃろと悩んでいたところ，この本の225ページに次のとおりさらりと記載してあるのを見つけました。「なお，代表清算人が死亡している場合には，他の清算人と登記名義人とで申請することができます。」

昨年発行された「抹消登記申請MEMO 青山修 著 新日本法規」の112ページでは，このQ&A210選225ページをこれまたさらりと引用してあります。

仕事はさらりとこなしたいものです。



霧島支部 宮田 康浩

- ①タイトル：マニアの王道 旅客機操縦マニュアル
- ②編 者：月刊エアライン編集部
- ③発行所：イカロス出版
- ④内 容：B737-500の操縦について，プリフライト（飛行前準備）から着陸後のパーキング（駐機）まで，コックピット内で行われるであろう手順，方法が写真や図をふんだんに盛り

込み詳細にわかりやすく解説してあります。

- ⑤**おすすめのポイント**：飛行機マニアでない限り全然面白くないでしょうが、飛行機マニアとしては自分でも飛ばせるかもと勘違いしてしまいそうな本です。

ただし、あとがきには「本書の内容はボーイング社製737-500型機のFAA・アップロード・フライト・マニュアル、およびパイロット・オペレーティング・ハンドブックを参考にして編集したものであり、実在する特定の航空会社の運航方式、操作手順等の内容を紹介したものではありません。また、誌面の都合により解説を簡略化したため、技術的には必ずしも正確ではない部分もあることをご了承ください。」との記載があります。

私は定価：本体1,800円＋税で購入しましたが、現在品切れでamazonで検索すると¥9,346よりとなっているようです。



鹿児島支部 田中喜久

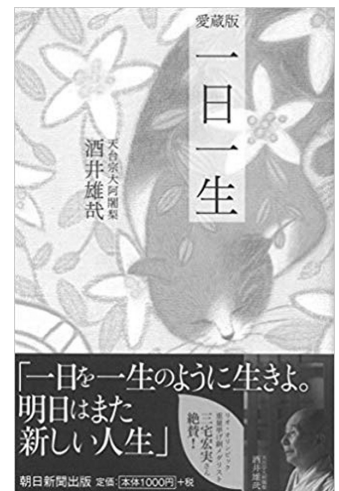
- ①**タイトル**：一日一生
②**著者**：酒井雄哉（さかい ゆうさい）
③**出版社**：朝日新聞出版
④**内容(あらすじ)**：延暦寺の千日回峰行を2回満行した、大阿闍梨・酒井雄哉さんが書かれた本です。「一日が一生、とって生きる」や「学ぶことと、実践することは両輪」など、人生を生きていくうえで参考となる言葉が収録されています。

- ⑤**おすすめポイント**：いつだったか、テレビで「千日回峰行」というものの特集をしていました。延暦寺の千日回峰行とは、比叡山の峰々を歩いて巡拝し、9日間の断食・断水・不眠・不臥なども行いながら、約7年かけてのべ4万キロ近くの距離を歩く修行です。

私には思いもつかない修行であり、さらにその修行を2回も達成された人がいることを知り、そのような崇高な方はどんな本を書くのだろうと気になり、この本を手にとりました。

偉い方だからといって難しい言葉は使っておらず、住職以外にもいろいろな仕事や経験をされてきた酒井さん個人の人生観がまとめられており、読みやすく勉強になります。

日々の業務で荒んだ心を癒したい・・・という方にはお勧めです。文章量もそんなに多くはないので、みなさんぜひ読んでみてください。



鹿児島支部 福 嶋 哲 平

みなさま、こんにちは。おすすめの本をご紹介しますのですが、私より実務経験は豊富であるはずの皆様に対して実務書を紹介するなんて行為はおこがましくて到底できません。ということで、今回ご紹介するのは、実務書ではない一冊です。

①タイトル：嫌われる勇氣

②著 者：岸見一郎 古賀史健

③出 版 社：ダイヤモンド社

④内 容：私の言葉でお伝えするよりもamazonでの紹介文を引用する方がより正確にご紹介できると思いますので、引用いたします。

『あの人』の期待を満たすために生きてはいけない——【対人関係の悩み、人生の悩みを100%消し去る“勇氣”の対話篇】

世界的にはフロイト、ユングと並ぶ心理学界の三大巨匠とされながら、日本国内では無名に近い存在のアルフレッド・アドラー。

『トラウマ』の存在を否定したうえで、『人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである』と断言し、対人関係を改善していくための具体的な方策を提示していくアドラー心理学は、現代の日本にこそ必要な思想だと思われます。

本書では平易かつドラマチックにアドラーの教えを伝えるため、哲学者と青年の対話篇形式によってその思想を解き明かしていきます。」

⑤おすすめポイント：この本、もう読んでるよ、という方も多いと思いますが、私なりのおすすめポイントを。

このアドラーという心理学者の考え方、すごいです。読み始めて数ページで度肝を抜かれました。これまでの常識だと思っていたことは、いとも簡単に否定されました。

皆さんの中で、「あのことがあったもんだから、今の自分はこの程度の人間なんだ」という考え方をされている方はいらっしゃいませんか。あるいは、「あのことさえなければ自分はもっとできるはずだ」と考えてみたりとか。

このような方こそ、ぜひとも本書を手にとられてください。これまでの考え方が根っこから覆されることうけあいです。

そして、本書の中から一言。

「大切なのはなにが与えられているかではなく、与えられているものをどう使うかである」



鹿児島支部 佐藤優希

①タイトル：赤めだか

②著者名：立川 談春

③出版社：扶桑社文庫

④内容(あらすじ)：著者である落語家の立川談春さんが、17歳で立川談志師匠に弟子入りし、厳しい修行や様々な試練を乗り越えて落語家になるまでが描かれたエッセイです。2～3年前にテレビドラマ化もされています。

⑤おすすめポイント：談春さんが兄弟弟子たちと過ごした修行時代や、二つ目昇進試験への挑戦、談志師匠との師弟関係など、談春さんが落語家になるまでの成長物語が、落語家さんらしい軽妙な語り口で綴られているので、読書の習慣がない私でもすいすい読むことができました。

また、談志師匠とのエピソードも多く描かれており、気難しくて怖そうな印象の談志師匠の落語や弟子たちに対する深い愛情を感じられる場面や、心にグサッと刺さる名言の数々も見所です。中でも、談春さんが弟弟子の志らくさんに嫉妬心を抱く場面で語られた言葉（以下で引用しています。）は、なるほどなと感心させられ、何度も読み返しています。

「己が努力、行動を起こさずに対象となる人間の弱味を口であげつらって、自分のレベルまで下げる行為、これを嫉妬と言うんです。」「本来なら相手に並び、抜くための行動、生活を送ればそれで解決するんだ。しかし人間はなかなかそれが出来ない。嫉妬している方が楽だからな。」「だがそんなことで状況は何も変わらない。よく覚えとけ。現実には正解なんだ。時代が悪いの、世の中がおかしいと云ったところで仕方ない。現実には事実だ。そして状況を理解、分析してみろ。そこにはきっと、何故そうなったかという原因があるんだ。現状を認識して把握したら処理すりゃいいんだ。」

落語への興味のあるなしにかかわらず、面白く読める本だと思いますので是非読んでみてください。きっと落語が見たくなると思います。ドラマも面白かったですよ！

